

「土しゃさいがいで思うこと」

さぬき市立石田小学校 4年 ふじい やすひろ さん

ぼくは、さく年、自由研究で水の力について調べてみました。それは、土で山を作り、水の量を変化させて、山の変化を調べました。少しの水量では、小さな土つぶが流れ、量がふえると、流れる土がふえ、最後には山がくずれてしまいました。

山ではゴツゴツと大きい石が多かったですが海の方では小さな丸い石が多かったです。それは、水は物をけずったり運んだりする力があることが分かりました。

実さいに山くずれなどは、テレビなどニュースで見たり聞いたりすることで、ぼくが生まれてから、体験がないので家族に聞いてみました。ぼくが生まれる前の平成十六年の秋、一日に六百ミリというたくさんの雨が台風によってふり、住んでいる所より上流にある門入ダムのさらに上流で山がくずれ、土石流がおこり、家を流し川や道路、そして、ダムの一部が土でうまり、何人も人がなくなりました。

家では、まわりの田や道路から水が流れ、水が家に入りそうになり、ひなんじゅんびをしました。はげしい雨の中、お母さんひとりで、小さな子どもをつれて、ひなんできないと、家の二階で台風がすぎるのをまったそうです。

お父さんからは、ダムがなかったら住んでいる家も土でうまったかもしれないと聞きました。

土しゃさいがいは、大変こわいものだと思い調べてみることにしました。

土しゃさいがいは、次の出来事からおきるさいがいをまとめて言います。

長雨や大雨で山がくずれたり、谷にたまっている土石などが流れる「土石流」

雨や地しんで急な土地がくずれる「がけくずれ」

地下水などで土地が下流に動いたり、すべる「地すべり」です。

日本は急な山が多く、台風や大雨、地しんが多いなど、じょうけんが悪く、土しゃさいがいがおきやすい国土で、きけんな場所が全国で、やく五十三万か所あります。一年間でやく千か所のさいがいがおきています。

一度さいがいがおきると、大切な命、家などのざいきんがなくなるなど、大きなひがいとなります。

国や県では、土しゃさいがいをふせぐしせつやけいかいひなん体せいのせいびをしたり、毎年六月を「土しゃさいがいぼう止げっかん」に決め、ひなん訓練やこうえん会をしているそうです。

日ごろから、家族とひなん場所などについて話したり、台風や大雨には、テレビなどで出る土しゃさいがいけいかいじょうほうに気をつけ、ひなんじょうほうが発表されたら、早めにひなんをするなど、さいがいでひがいに、あわないよう一人一人が出きることをすすんでしたいと思います。